

日本石仏協会主催 石仏見学会  
江戸川区東葛西の庚申塔めぐり

江戸川河口の妙見島対岸の長島・桑川は、中世から水運の要所で、狭い地域に寺社や石造物が多く残されています。江戸時代の庚申塔 12 基、その中には万治の阿弥陀像や地蔵像、寛文の観音像など青面金剛像以外の庚申塔が 4 基あり、また、近代の富士塚も見どころのひとつです。

- ①桑川神社 (桑川の富士塚)
  - ②称専寺 (万治三年銘の地蔵菩薩像庚申塔／阿弥陀如来像庚申塔～路傍の庚申塔)
  - ③智光院 (徳本上人名号塔) ～④正円寺 (庚申塔) ～⑤清光寺 (長島高城伝承地・筆子塚)
  - ⑥香取神社 (庚申塔・富士塚) ～⑦東善寺 (庚申塔) ～⑧梵音寺 (文保元年銘の板碑)
  - ⑨自性院 (観音立像と青面金剛像の庚申塔)
  - ⑩真蔵院 (二童子四夜叉付青面金剛像の庚申塔・雷不動道標) ～
  - ⑪昇覚寺 (庚申塔・十九夜塔・筆子塚) ～⑫中割天祖神社 (富士塚) ～⑬大六天堂～葛西駅
- ~~~~~ . ~~~~~ . ~~~~~

① **桑川神社** 東葛西 1-23-19

旧桑川村の鎮守で、もと第六天と称す。祭神は面足之命で、創建年月は不詳。

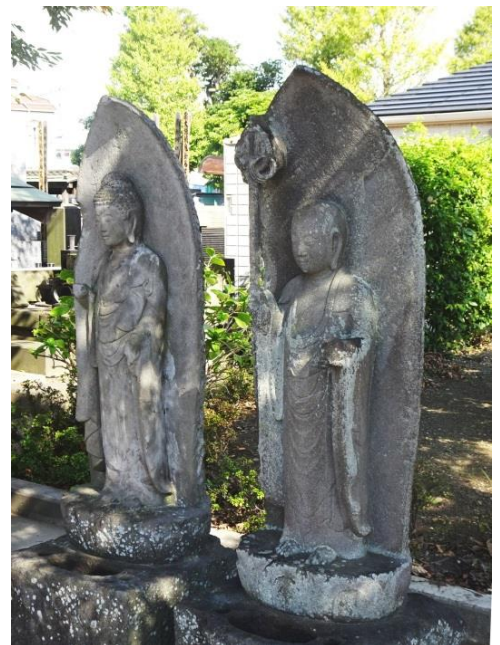
- ☞ **桑川の富士塚** (区登録有形民俗文化財) (⇒写真)
- 昭和4年(1929)旧桑川村の山玉参拝講の人たちが築造。
- ☞ **青面金剛像庚申塔** 寛政五年銘(1793)(写真はP6)



② **称専寺** 東葛西 1-38-23

「浄土宗、下今井村金蔵寺末。一向山無量院と号す。本尊弥陀を安す。開山法誉、永禄5年3月6日寂す。」(新編武蔵風土記稿より)

- ☞ **地蔵菩薩像庚申塔** 万治三年(1660)銘 (区登録有形文化財)「庚申之功德」(⇒写真)
- ☞ **阿弥陀如来像庚申塔** 万治三年(1660)銘 (区登録有形文化財)「奉建立石佛,庚申之供養立之講衆等一軀口輩現當之両益奉祈者也仏法界平等□□」(⇒写真)



- ☞ **路傍の青面金剛像庚申塔** M 家東道路角 (東葛西 3-4-13)
- 明和五年(1768)銘(写真はP6)

③ **智光院** 東葛西 3-14-3

「同末（浄土宗、上今井村金蔵寺末）。普照山閻魔寺と号す。見蓮社見誉光雲、天正元年の草創なり。本尊阿弥陀、行基の作、長二尺五寸、傍に閻魔の像を置。長三尺是も行基の作と云。」（新編武蔵風土記稿より）

☞ **徳本上人名号塔**（⇒写真）



④ **正円寺** 東葛西 3-4-22

「同末（新義真言宗、上小松村正福寺末）、海寶山地蔵院と号す。開山良範。本尊地蔵。地蔵堂。」（新編武蔵風土記稿より）

☞ **笠付角柱型の文字庚申塔** 寛文三年（1663）銘、（区登録有形民俗文化財）

「奉造宮庚申結衆二世安楽」銘 種子「ウン」、台石に三猿。（⇒写真）

☞ **青面金剛像庚申塔** 弘化四年（1847）銘（写真は P6）



⑤ **清光寺** 東葛西 3-3-16

安照山太子院 浄土宗。文亀 2 年(1502)徳誉法印が開山。本尊は阿弥陀三尊の木造立像で、ほかに法然上人像と善導大師の像を祀っている。寺の境域は、中世の館跡・長島高城の伝承地。

○ **長島高城の伝承** 中世の長島は長島湊ともよばれた水運の中継地で、14 世紀末には、ここに長島関があり、当時の太日川を通航する船か下総香取大神宮の灯明料の徴収を許されていた。

小田原北条氏が関東一円を支配していた時の「小田原衆所領役帳」に、江戸川区内の郷村名 16 の中に「長島高城」という記載がある。寛延 2 年(1749)青山某の著「葛飾記」に、「此所昔、長島殿と申す城主の城下の湊のよし」という記述があり、清光寺のあたりには城館にちなむ地名が伝わっていて、中世の館があったという伝承を伝えている。

○ **木造奪衣婆坐像**（区指定有形文化財・彫刻）

室町時代後期（15 世紀後半頃）の作。三途の川のほとりで死者の衣を奪い取るという鬼女の像。

☞ **青柳三酉筆子塚**（区登録有形文化財）（⇒写真）

青柳三酉は、文久 2 年（1862）長島村に寺子屋を開業。明治 6 年（1873）には家塾となって、教授を続け、明治 12 年 9 月に亡くなりました。墓碑背面に筆子中と彫られている。



⑥ **香取神社** 東葛西 2-34-20

「茂呂神社 村内の鎮守とす。祭神香取太神宮なり。茂呂と号せる謂を傳へず。本地佛十一面観音を安ず。自性院持。末社。龍神宮、三峯権現、金比羅」新編武蔵風土記稿より）

別当の自性院が、文久年間(1861～1864)に火災にあい、古記録を焼失し詳細は不明だが、四百年以上前の古社という。

拝殿と本殿に精緻な彫刻がある。八雲神社は、同村の西部地区から昭和 26 年(1951)にこの地に移した。

☞ **青面金剛像庚申塔** 天明六年（1786）銘（写真はP6）

☞ **長島の富士塚**（区登録有形文化財）（⇒写真）  
高さは約4m、頂上に近い部分はボク石を積み上げ、下部は丸石で覆われている。頂上には「浅間神社」と刻まれた石碑（明治41年銘、1908）あり。

「御山築設の由来」（大正6年銘、1917）によると、明治41年に旧長島・桑川両村の山玉参拝講の人びとによって築かれ、大正6年に長島・桑川・南新川・十五面などの有志によって改築されたと記されている。



☞ **海苔創業記念碑** 大正元年(1912)建立、旧長島村で行なわれた乾海苔創業の経過とその功労者名が刻まれている。

### ⑦ **東善寺** 東葛西 2-29-21

真言宗豊山派、医王山応心院。仁平2年（1152）空円上人が開山、応永18年（1411）頼重上人が中興。

本尊の薬師如来像は、眼病に御利益のある「薬師像」と知られ、仏師春日が養老3年（719）河内国春日野で制作し、仁平2年（1152）空円上人が開山するとき、ここに安置したと伝えられてきた。

○ **木造薬師如来坐像**（区指定有形文化財）

13世紀の仏像彫刻で本尊。33年に一度開帳される。

○ **厨子入木造愛染明王坐像**（区指定有形文化財）

☞ **青面金剛像庚申塔** 元文二年銘（1737）（写真はP6）

### ⑧ **梵音寺** 東葛西 2-28-16

曹洞宗で海潮山と号し、本尊は観世音菩薩。承和14年（847）慈覚大師の創立といわれ、中興開山は栄室寿盛で寛永3年（1626）に入寂。

縁起によると、慈覚大師（円仁）が唐から帰朝の際、大時化にあい難破しそうになったが、観世音菩薩の光明が輝いて風は止み、この地に無事上陸できたので、大師は尊像を梅檀に刻み堂宇を建て、本尊として祀ったのがこの寺の始まりと言われる。

○ **木造観音菩薩坐像**（区指定有形文化財）

鎌倉時代の慶派仏師の様式を思わせる秀作。頭髪や衣文の作風から、南北朝期（14世紀後半）の製作と考えられている。

☞ **板碑・文保元年(1317)六月日銘**（区指定有形文化財）（⇒写真）

阿弥陀の種子に、蓮座を彫る。古くから境内のお堂の中に、地藏像とともに祀られてきた。この地域の鎌倉時代のようなすを知る上で貴重な歴史資料。



⑨ **自性院** 東葛西 2-30-20

覚王山神宮寺 真言宗豊山派 開山は良範法印で文亀元年(1501)寂。また、法流の祖は、秀覚法師(寛文5年-1665寂)といわれている。

☞ **観音菩薩像庚申塔** (区登録有形文化財)

聖観音菩薩立像を陽刻した舟型石塔。像の両脇に寛文八年の年紀と「奉待庚申結衆三尸教祈願成就二世安楽所」と刻まれている。(⇒写真)

☞ **青面金剛像庚申塔** 元禄十一年(1698)銘(⇒P6)



⑩ **真蔵院** (雷不動) 東葛西 4-38-9

海松山 真言宗豊山派 天文年間(1532-1555)に空誉上人が開山。

真蔵院の「雷不動」は、もと「波切り不動」といわれて、土地の人から多くの信仰を集めた。地名の「雷」は「雷不動」に由来する。

○ **雷の大般若** 区指定無形文化財

大般若波羅密陀經の威徳をあらわす悪魔払いの行事で、2月の雷不動(真蔵院)の縁日(最近では前後の日曜日)に行われる。白粉を塗り、女物の長襦袢などを着た若衆が、大般若経六百巻を百巻ずつ箱に詰めて、担いで町内を駆巡り、家々を訪ねる。昔は江戸川対岸の千葉県行徳や浦安でも行われていた。

☞ **青面金剛像庚申塔** (区登録有形民俗文化財) (⇒写真)

台石に文化2年(1804)とあるが、元禄11年(1698)建立の庚申塔。青面金剛の像を中心に、日月・二童子・四夜叉の像を陽刻している。

☞ **乾海苔創業記念碑**

江戸時代から始められていた葛西の海苔は、明治に入って東宇喜田村の森興昌が、佐久間七郎兵衛らとともに乾海苔生産の有利を唱えて奔走、明治19年に東京府の海苔取場認可をうけてから盛んになった。記念碑は明治43年(1910)9月に土地の関係者たちが、森興昌等の功績をたたえて建立。橋本省吾撰書。

☞ **雷不動明王石造道標** (区登録有形文化財) (⇒写真)

もとは、新川河口南岸にあたる東葛西 1-48-16 路上にあった。近在の雷不動(真蔵院)に向うための道標で、高さ250cmの大きなもの。

正面に「雷不動明王」と大書され、左側面に「従是南十三丁」右側面に「文政元戊寅年六月再建」(1818)とある。

本体の角に残るへこみは、新川の曳舟がとも綱をかけた痕と伝えている。平成3年4月に倒壊破損したため、修復後の翌4年に真蔵院へ移設された。

☞ **雷の富士塚**

現在の真蔵院境内の南側が道路に面しているが、その道路部分に香取神社の社殿があり、その境目にまたがって雷の富士塚とよばれた富士塚があった。平成2年に道路ができ、富士塚はその石の一部と石碑が真蔵院境内に保存された。



## ○ 雷香取神社

明和 5 年（1769）鎮守として祀られた。当時の水盤が境内に保存されている。ながらく茅葺きの社殿を残していたが、道路整備により、平成 2 年に社殿を新築移転した。

### ⑪ **昇覚寺** 東葛西 7-23-17

○鐘楼（区指定有形文化財） 鐘が鑄造された天明 5 年(1785)頃の竣工と推定。低地用に工夫された「そろばん地業」の基礎。(⇒写真)

本寺はもとは尼寺で、梵鐘は女性から櫛やかんざしの寄進を受けて鐘に鑄こみ、天明 5 年(1785)に鑄造。

☞**如意輪観音像の十九夜塔** 寛政 10 年（1798）2 月建立（台石は弘化 4 年 1847 再建）

☞**手習師匠市川松老翁墓誌銘**（区指定有形文化財）

文政 6 年(1823)門人たちが建立。裏面には「葛西門人中 当村 彦田 松齡女書」の銘。

☞**青面金剛像庚申塔** 元禄 7 年（1694）初冬 6 日建立（⇒写真）



### ⑫ **中割天祖神社** 東葛西 7-17

旧東宇喜田村仲割の鎮守で「神明宮」とよばれていた。高野山無量寿院の邵値阿闍梨が、寛永 15 年（1638）にこの地に来て昇覚寺を開き、慶安 2 年(1649)に天照大御神の分神を勧請して、この神社を建てたといわれているが、慶安 2 年の「当社修造二度目」という棟札が発見されており、創建はもう少し古いと考えられる。



昭和 63 年(1988)、土地区画整理にともなう計画道路が建設されたため、茅葺きの社殿は移転新築され、昭和初期築造の富士塚、昭和 6 年建立の葛西浦漁業組合紀功碑も移設された。

☞ **中割の富士塚**（区登録有形民俗文化財）

旧東宇喜田村の丸葛葛西講中によって、昭和初年に築造。昭和 5 年の紀年碑がある。昭和 63 年、天祖神社の移転にともなって現在地へ移築復元（平成元年 3 月竣工）された。(⇒写真左上)



### ⑬ **仲町大六天堂**

大六天老母（ロウバ）一同による念仏講（区登録無形民俗文化財）が続けられている

。☞ **石造「大六天」文字塔**（⇒写真右上）

東葛西（桑川・長島地区）の江戸期の青面金剛像の庚申塔（時代順）

自性院（東葛西 2-30-20）  
元禄 11 年（1698）



東善寺（東葛西 2-29-16）  
元文 2 年（1737）



森田家東道路（東葛西 3-4-13）  
明和 5 年（1768）



香取神社（東葛西 2-34-20）  
天明 6 年（1786）



桑川神社（東葛西 1-23）  
寛政 5 年（1793）



正円寺（東葛西 3-4-22）  
弘化 4 年（1847）

